

教育制度論		講義	准教授 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	11520103 12520103 13520103

1. 授業のねらい・概要

教育研究には大きく分けて二つのアプローチが存在する。ひとつは具体的な「教える - 学ぶ」関係に着目するミクロなレベルでのアプローチ、もうひとつは社会システムとしての教育制度を対象とするマクロなレベルでのアプローチである。教育に関する理解を深めるためには、これらのアプローチがともに必要となる。本講義はこのうち、後者の社会制度としての教育を対象とするものである。教育制度の仕組みや歴史の変遷について学ぶことで、教育についてより立体的な考察を展開できるようになることが、本講義の目的である。

2. 授業の進め方

レジュメおよび資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料なども適宜織り交ぜていく。

3. 授業計画

1. 講義の概要	9. 学校選択制①：日本の事例
2. 憲法と教育基本法①：憲法の理念	10. 学校選択制②：イギリスの事例
3. 憲法と教育基本法②：教育基本法の理念	11. 学校安全への制度と取り組み
4. 教育振興基本計画	12. 教育委員会制度
5. 学校の目的と目標	13. 全国学力テスト
6. 学校の組織	14. 中央の教育行政組織と教育財政
7. 学校評価制度①：学校評価の種類と現状	15. 講義のまとめ
8. 学校評価制度②：家庭・学校・地域の連携	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義を受講する前に、前回の内容を復習しておく。さらに、毎日これまでの講義内容と関連するニュースを探し、読んでおく。なお、これらの準備学習には2時間以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出前に解答のポイントを説明する。課題後には講評を公開する。

6. 授業における学修の到達目標

社会システムとしての教育制度を理解し、教育についてマクロな視点からとらえることをテーマとして、下記の目標を掲げる。

- ・教育制度に関する基礎概念や現代的課題について理解する。
- ・現代の教育問題について、制度的な観点から考察を行うことができる。
- ・具体的な地域社会に存在する学校を支える制度を理解する。
- ・学校をより安心で安全にするための取り組みを制度的な観点から理解する。

7. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末課題（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

8. テキスト・参考文献

講義時に自作資料を配付する。参考文献としては、坂田仰ほか（2017年）『新訂第3版 図解・表解教育法規』教育開発研究所。土屋基規編（2011年）『現代教育制度論』ミネルヴァ書房。木村元ほか（2009年）『教育学をつかむ』有斐閣。

9. 受講上の留意事項

「教職概論」および「教育基礎論」の内容を前提に講義を進めるため、原則的にこれらの科目を履修したうえで受講してほしい。明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く望む学生の受講を希望する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。